

吾先寺縁起序

伊地知氏

五言真堂

夫惟阿彌佛起世の忠行とよまされ  
 度にた故に法末時より經道滅盡の終りも  
 終りたまふまゝいふ本願中々衆生と成り  
 ありの程量れし實に奇なりし妙ありし  
 得候もあらざるものも抑信徳因吾先寺に  
 如來の教邊年厄佛降土の必身と拓のしに  
 此の中にも現の守生所一行の願をみれば  
 今更法流布にのりぬれ推しよその早急  
 とも知らるる法としてあらるる此の縁起

終



才十一 長たるが...  
才十二 蒼葉が由來

若光寺縁起書才一

一 日本書紀三國傳末に記

抑信流國若光寺は本意を生身は阿波流如來を性  
昔亦天竺毘舍離城の仙人福智自在の志願月  
蓋長老の志願よりして生出現ましくりつさ  
てけ清仏三國より傳來したまふてあまこの福生  
と傳はしたまふものなりと云ふ所の天竺三國百海  
國日本國たりまの天竺にてもめとりたにの世  
敷いまごひらけざる時漸くたる虛空のどく結ると  
風輪を流と記たりて天と地とまごころ地をのつ  
りつ命なりそのまごころ織夷山妙なる心明流心なとく



りたに出来たり(二)彼須弥の四方に四の島のりてを  
よわつと東弗婆提となづく地乃形す月のごとく人は  
る日身こそあにわつと西瞿耶尼となづく地の形満月  
のごとく人の身二百五十歳たりともよわつと北具舍列  
となづく地の形甲がよそ人の身一子歳たりとも南に  
わつと南閻浮利ともよわつと南閻浮提ともい地の形車箱  
のごとく人の身百歳たり今世は十一年と壽命なりといい閻浮提の中に  
天竺震旦あ朝のりつるに二世の今世は十一年と壽命なりとい法佛出世して  
衆生と利益したまふといふ二箇なりといふ出給り候も別じ箇  
のなまに初と経て機縁のゆへに申にも伴天竺三摩  
河陀ぬにせつとあつてぬるをえして法ととも経と

そこの寂滅の場を提樹下はとありに二世の法佛ともい  
はるに初と経て機縁のゆへに申にも伴天竺三摩  
河陀ぬにせつとあつてぬるをえして法ととも経と  
そこの寂滅の場を提樹下はとありに二世の法佛ともい  
はるに初と経て機縁のゆへに申にも伴天竺三摩  
河陀ぬにせつとあつてぬるをえして法ととも経と  
そこの寂滅の場を提樹下はとありに二世の法佛ともい  
はるに初と経て機縁のゆへに申にも伴天竺三摩  
河陀ぬにせつとあつてぬるをえして法ととも経と  
そこの寂滅の場を提樹下はとありに二世の法佛ともい  
はるに初と経て機縁のゆへに申にも伴天竺三摩  
河陀ぬにせつとあつてぬるをえして法ととも経と

つとありて人富まらばとて地蔵王の持たり  
つとありて人富まらばとて地蔵王の持たり



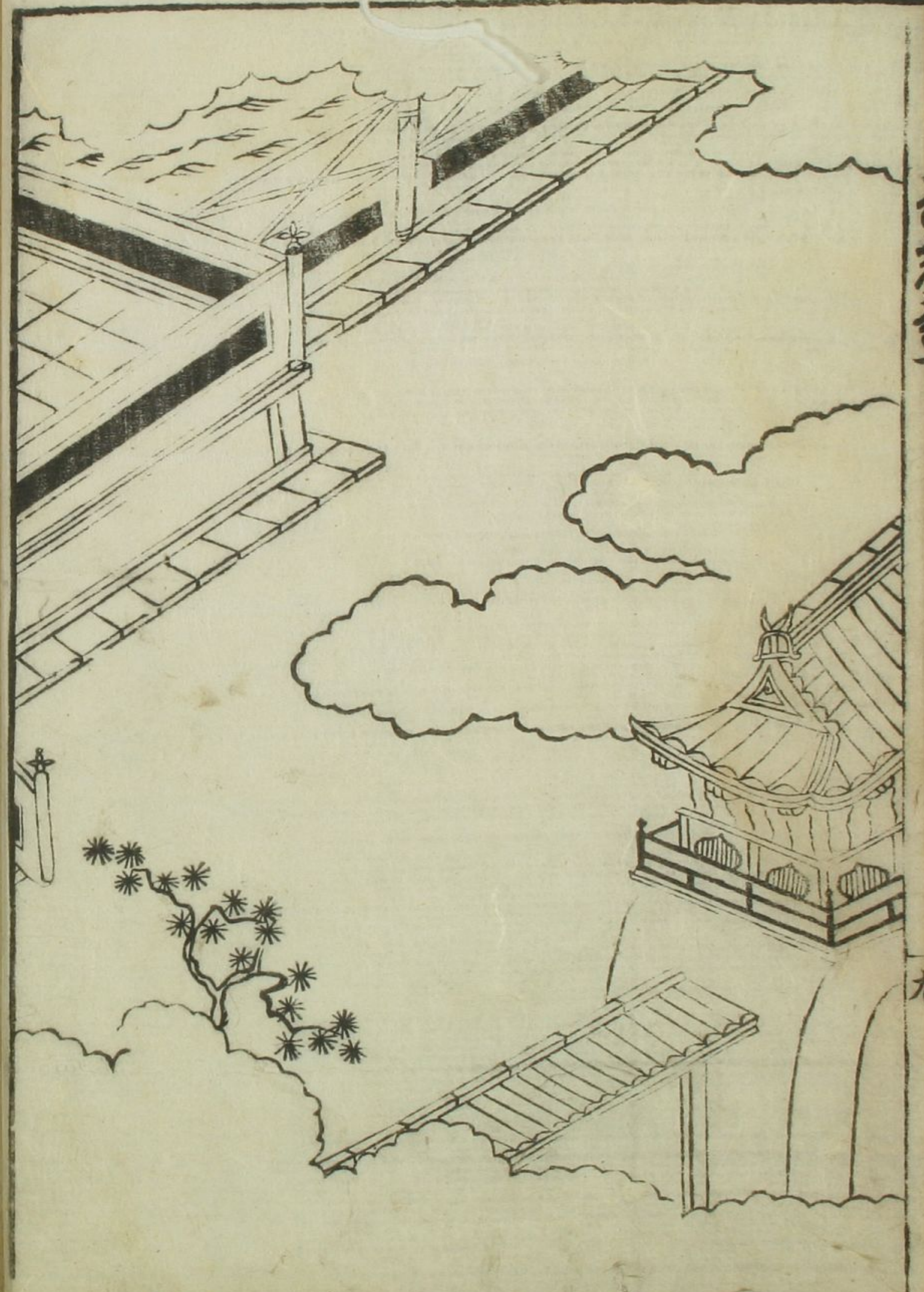




















此の如くしるし人なる海濱と後月蓋長まつ  
 一これとてうづむしつやうこれともいふる  
 ちうちとてありたりなるよりかてしやう  
 けしとて教自正の正神まつてさめく責  
 ましめとて長えとてさつとてさつとて  
 ちう軍とてして甲冑とてさつとてさつとて  
 と入つてはとて知とてさつとてさつとて  
 とさつとて彼城とてさつとてさつとて  
 獲とてさつとて獲とてさつとてさつとて  
 神とてさつとて病依とてさつとてさつとて  
 くれとてさつとて文とてさつとてさつとて















